

月例研究会（2006年11月22日）

近代日本における社会運動と高知県

梅田 俊英

はじめに

最初に水野吉太郎について述べたい。水野は、「伊藤博文殺害」とされる安重根を弁護した人物である。水野は、伊藤殺害には「義拳」の面あり、死刑は不当であるとした。水野は1874年、高知県に生まれた。和仏法律学校（現、法政大学）卒業、ボアソナード民法を擁護して民法典論争に参加した梅謙次郎（和仏法律学校学監）の弟子の一人である。1900年には高知市で弁護士を開業した。のち、衆議院議員（政友会）。青年たちに植民地領有のむなしさを説いたという。なお、和仏法律学校は自由民権思想の拠点といわれた。このように、法政大学と高知県とは浅からぬ関係があったといえよう。

1、近代日本社会運動の前身

1891年、立憲自由党機関誌『自由』の主筆江口三省が「社会主義」の記事を掲げた。さらに、翌年には『自由』記者、上野岩太郎ら「社会問題研究会」を組織した。このように自由党メンバーが社会主義、社会問題への関心を示した。しかし、板垣退助の機嫌を損じて自然解消した。ここに自由民権運動指導者、板垣の限界が示された。

2、米騒動後の社会運動と高知県

1918年7月から米騒動が全国的に展開され

た。高知県では8月15日以後に各地で騒動が発生した。3人が実刑になっているように、必ずしも軽微なものではなく、後の高知県社会運動に影響を与えた。翌年には、政友会高知支部が故幸徳秋水に感謝状を送っている。これなどは大正デモクラシー思想の影響を示すものであろう。

1926年に労働農民党が結党（右派）されている。左派の門戸開放要求高まる中で、右派は脱退し、12月に社会民衆党が結党された。すると、翌年には社会民衆党高知支部が発会した。このように高知県では全国政党支部を最初に作るという傾向があった。これは、日本各地で共通のものではなく、たとえば愛知県では地域政党が最初に結成され、後に全国政党支部となっていくのである。

3、電化の進展と社会運動

電化が進展する中で、電灯料値下げ運動が全国的に展開された。高知県では佐竹晴記らの社会民衆党支部、田中喜代馬らの日本大衆党支部がそれに取り組んだ。

まとめにかえて

高知県の戦前社会運動の指導者は安芸盛らの中間派と右派が中心だった。共産党支持者もかなり存在した。これら指導者は高知からいったん大阪や東京にでて高知に帰りリーダーとなるケースが多かった。交通の不便さがかえって、外に出るという意欲を持たせたであろう。また、高知に帰るというのは、高知が「自由民権運動発祥の地」であることによる自負、また、高知が民権思想の中心であるというプライドがあったのかもしれない。

（うめだ・としひで 法政大学大原社会問題研究所兼任研究員）